

Recherche 00053 ミニマムドレス仕様書

ニット用

パターンパーツ数 9

～付属品～

接着芯

伸び止めテープ ※ベルスリーブの場合

水溶性シート及び安定紙 ※カバースリーブの場合

サイズ		80	90	100	110	120	130	140	150
着丈		46.5	51	57.5	61.5	67	72	77	82
肩巾		22	23.5	24.5	26	27	28	31	33
バスト		22.5	24	25	26	27.5	30	33	36.5
ウエスト	Aライン	25	26.5	28.9	30.8	32.5	35	39	43.5
	シーズライン	22	23.5	24.5	25.5	26.8	28.5	30.5	34.5
袖丈	ベルスリーブ	7.9	8.2	8.5	9	9.5	10	10.5	11
	長袖	28.5	31.5	35	40	43	47	50	53
	カバースリーブ	34	39	44.5	49.5	52.5	57.5	60.5	63.5
袖口巾	長袖	5.8	6.2	6.4	6.8	7.3	7.8	8	8.2
	カバースリーブ	6.3	6.7	7	7.3	7.5	7.9	8.2	8.5
用尺※	110巾	101	107	122	131	137	169	157	161
	150巾	61	63	71	76	79	148	175	183

※カバースリーブで作成の場合

オリジナルパターン・仕様書の著作権・販売権は Recherche が所有しています。  
 いかなる理由であっても、オリジナルパターン・仕様書の無断転用・複写・流用及び転  
 売はご遠慮ください。

■ 用語

CF(センターフロント).....前中心

CB(センターバック).....後中心

SL(ショルダーライン).....肩線

AH(アームホール).....袖ぐり

SNP(ショルダーネックポイント).....肩線の衿側

空ロック.....布端処理等に用いる、縫い合わせをしないロック

コバステッチ.....1~2 mmの端ミシン

■ 裁断前に必ず地直しを行ってください。

■ 二本針四本糸ロックミシン使用を想定しています。それ以外の場合は着用し辛くなったり、糸切れの原因になりますのでご注意ください。

パターンには芯を貼る位置やステッチの巾等の指示が書いてありますので、本仕様書と共に確認しながら作業を進めてください。

----- 作り方 -----

粗裁ちし、接着芯を貼ります(※本仕様書では省略しています。)

「前・後見返し」を粗裁ちをした後、全面に接着芯を貼ります。

(※粗裁ちとは…接着芯を貼ると生地が縮む為、パターンよりも大きめに裁断する事です。)

裁断

地の目線を確認し、生地の方向や伸びに注意しながら裁断します。

粗裁ちして接着芯を貼った見返しパーツもパターンどおりに裁断し直します。

ノッチ(合印)を入れます

各部にノッチを入れます。

裁断時、わ になった部分にもノッチを入れます。(CF、前見返しCF、CB、後見返しCB)

※ノッチとは、縫い代に0.3 cmほどの切り込みを入れることです。

※ノッチを深く入れすぎるとほつれやすくなりますので注意します。

※各所縫い合わせの時はこのノッチどうしを合わせます。

伸び止めテープを貼ります(※本仕様書では省略しています。)

ベルスリーブ作成時のみ「袖口の出来上がり線の縫い代側」に伸び止めテープを貼ります。

※長袖・カバースリーブの袖口には貼りません。

### 見返し

3 mm切り落としながら 5 mm巾の空ロックを「前・後見返しの下側」にかけます。

### 衿ぐり

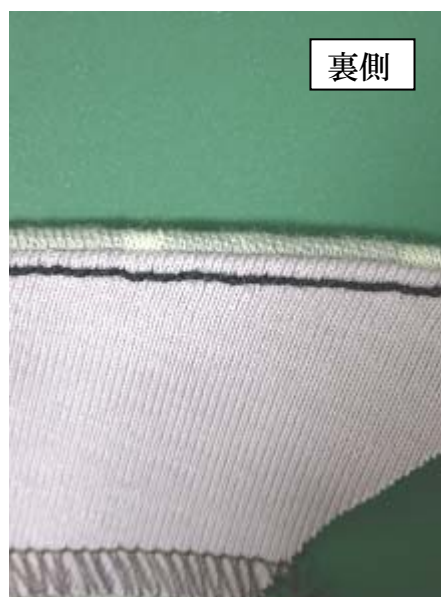
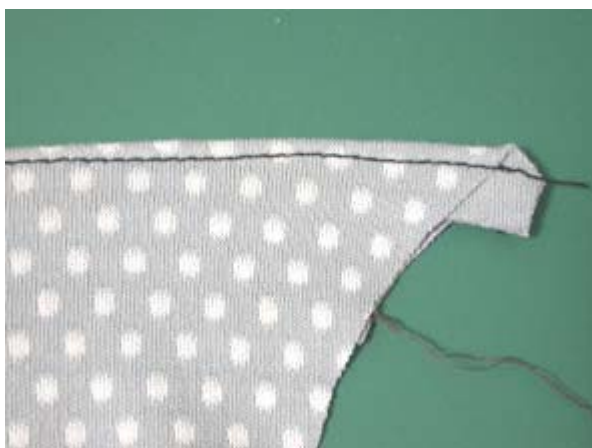
「前身頃」と「前見返し」を中表に重ね、出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。  
縫い代に切り込みを入れます。

※縫い目を切らないように注意しながら、カーブの急な所は多め切り込みを入れます。  
(衿ぐりを裏コバステッチをかける場合は浅めの切り込みにします。)



表に反し、見返しを身頃より控えてアイロンをかけます。(控えると袖ぐり側の縫い代が揃います。)

コバステッチをかけます。

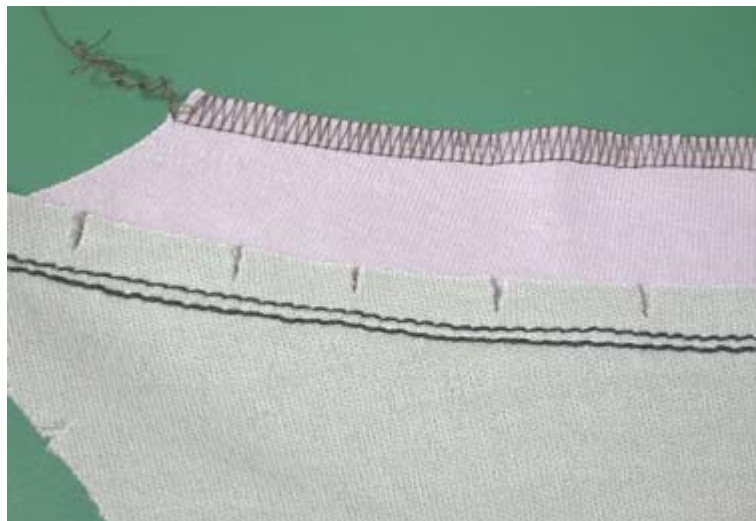


※表にステッチを見せたくない場合は裏コバにします。(次ページ参照)

～裏コバ～

「衿ぐりの縫い代」を2枚共見返し側に倒し、アイロンをかけます。

出来上がり線より2mm 縫い代側に表側からステッチをかけます。(見返しと縫い代を重ねて)



※左画像は裏側から見たところ

上の縫い目＝裏コバ線

下の縫い目＝出来上がり線

表に返し、見返しを身頃より控えてアイロンをかけます。(控えると袖ぐり側の縫い代が揃います。)

後身頃と後見返しも同様に縫い合わせます。

袖口(ベルスリーブ)

3mm切り落としながら3mm巾の空ロックを「袖口」にかけます。

※作動送り機能がある場合はカーブに合わせて縮めます。

出来上がり線をアイロンで折り、ステッチをかけます。



～P6 袖付けの工程へ進みます～

袖口(長袖・カバースリーブ)

～親指の通し口を開けます～※カバースリーブの場合  
袖パーツを腕に当て、穴を開ける位置・角度・寸法を決めます。  
※指の太さではなく、親指付け根の寸法を目安にします。

ボタンホールを作る要領で通し口を作ります。  
※場合によって水溶性シートや安定紙を使用します。

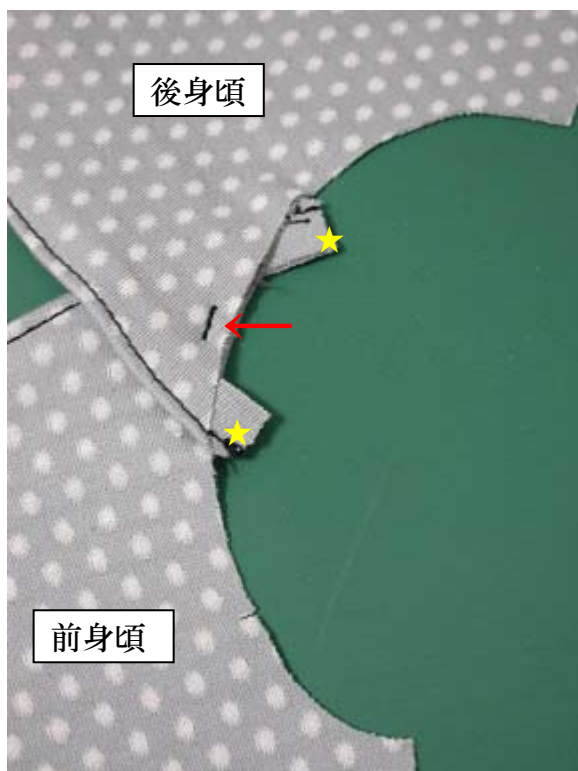
～屏風たたみ処理～  
袖口巾が狭い為、屏風たたみ処理をします。  
下画像のように「袖口」を折り、アイロンをかけます。



5 mm切り落としながら5 mm巾のロックを「屏風状に折り畳んだ布端」にかけます。  
(※左下画像参照)



## SL・袖付け



「前肩」の上に「後肩」を重ね、NPの合印（前後身頃・前後見返し）を合わせます。

ずれないように数針仮留め（粗ミシン・しつけでも可）ます。

※左画像矢印の位置=NP

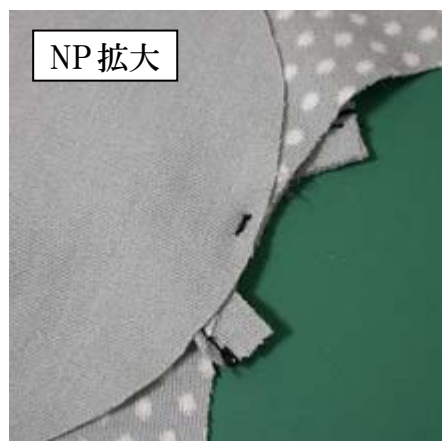
※左画像星印の縫い代がはみ出ますが、袖付け時のロック縫い落としを防ぐ為です。切り揃えないで下さい。



～備考～

SL 周辺の重なりが多く厚みが出る為に、袖付け時に縫いズレ・縫い外しする事があります。

心配な場合は袖の NP も一緒に仮留めします。



「前後肩」の上に中表に「袖」を重ねます。

5 mm切り落としながら5 mm巾のロックを「袖ぐり」にかけます。



※ロック後、表から見たところ

### 袖～脇

「袖口～身頃」を中表に重ね、5 mm切り落としながら5 mm巾のロックで縫い合わせます。

※袖口側から縫い始め、袖ぐり脇の縫い代は身頃側へ倒します。



「袖口の縫い代」を後側に倒し、直線ミシンでおさえます。※右画像参照



## 裾

「裾」を 3 mm 切り落としながら 5 mm の空ロックをかけます。



※作動送り機能がある場合はカーブに合わせて縮めます。

※脇の縫い代は後身頃側へ倒します。



出来上がり線をアイロンで折り、ステッチをかけます。

-----  
完成